

内閣府青年国際交流事業報告書2020

令和2年度

「東南アジア青年の船」未来会議



※ 一部（名簿、写真、挨拶者氏名等）の個人情報については
削除してあります。

序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

「東南アジア青年の船」事業は、昭和49年(1974年)に我が国とASEAN加盟国との共同事業として発足したもので、参加青年が船内や訪問国で生活を共にする中で、討論、ホームステイ、地元青年との交流等様々な活動を通じて、日本及びASEAN諸国の青年相互の友好と相互理解を深めるとともに、国際的視野を広げ、国際化が進展する社会の各分野でリーダーシップを発揮することができる青年を育成することを目的としています。

しかしながら、令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、国を越えた交流が困難となり、当初予定していた事業も残念ながら中止となりました。

その一方で、現代はオンラインの活用により遠く離れた国々の青年同士が瞬時につながる時代でもあります。こうした技術も活用し、代替的な国際交流の場、そして新しい試みとして「東南アジア青年の船」未来会議を開催することとしました。

本会議では、日本及びASEAN10か国の青年を対象とした「次世代リーダー育成会議」及び既参加青年を対象とした「日本・ASEAN青年交流における『東南アジア青年の船』事業の在り方検討会議」を実施いたしました。

次世代リーダー育成会議では、日本及びASEAN諸国の青年の総勢約300名がオンラインを活用したディスカッションを行い、交流を深めるとともに、在り方検討会議では、「東南アジア青年の船」事業の既参加青年約40名が、事業参加後の経験を共有したほか、本事業が今後日本・ASEAN諸国の友好、青年交流、発展等に貢献していくためにどうあるべきかについて提言を行いました。

本会議による交流を通じて、参加者の皆様が交流を深めるとともに、様々なテーマについて大いに議論いただいたことで、参加青年が今後の活動につながる学びを得て、今後の活動において活躍されることを願ってやみません。

また、いただいた提言を踏まえ、内閣府としても将来の「東南アジア青年の船」事業のさらなる充実につなげたいと思います。

本報告書は、今回のオンライン交流で行った様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の成果を御理解いただくとともに、今後の一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施に当たって御協力いただいた参加各国の政府をはじめ、関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和3年3月

内閣府青年国際交流担当室長
酒田 元洋

内閣府青年国際交流事業報告書2020
令和2年度「東南アジア青年の船」未来会議

C O N T E N T S

序	3
カラーグラビア	5
第1章 事業の概要	9
1. 趣旨	9
2. 日程	9
3. 参加青年 (PY)	10
4. ファシリテーター会議	10
第2章 「東南アジア青年の船」未来会議	12
1. 日程	12
2. 内閣府特命担当大臣挨拶	14
3. 基調講演	14
第3章 ディスカッション・各グループのレポート	17
1. 政策グループ	17
2. 外交グループ	18
3. 教育グループ	20
4. グローバル企業グループ	22
5. 起業グループ	23
6. ICTグループ	24
7. NGO/NPOグループ	26
8. 環境・災害グループ	27
9. インフラグループ	30
第4章 「東南アジア青年の船」事業の在り方提言	32
第5章 参加青年による事業評価	36
関係資料	41
1. 参加者名簿	41
2. 参加青年の構成	51